




令和5年度

軽井沢町各会計決算及び  
基金運用状況審査意見書

軽井沢町監査委員

6 軽監査第 6 号  
令和 6 年 8 月 8 日

軽井沢町長 土屋 三千夫 様

軽井沢町監査委員 依田 

軽井沢町監査委員 佐藤 敏明 

令和 5 年度軽井沢町各会計決算及び基金運用状況  
審査意見書の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項及び第241条第5項並びに地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により審査に付された令和5年度軽井沢町一般会計、特別会計及び公営企業会計の決算並びに関係書類並びに基金の運用状況を示す書類を審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出する。

## 第1 審査の概要

### 1 審査の対象

- (1) 令和5年度軽井沢町一般会計歳入歳出決算
- (2) 令和5年度軽井沢町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算
- (3) 令和5年度軽井沢町駐車場特別会計歳入歳出決算
- (4) 令和5年度軽井沢町介護保険特別会計歳入歳出決算
- (5) 令和5年度軽井沢町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- (6) 令和5年度軽井沢町水道事業会計決算
- (7) 令和5年度軽井沢町下水道事業会計決算
- (8) 令和5年度軽井沢町国民健康保険軽井沢病院事業会計決算
- (9) 令和5年度基金の運用状況

### 2 審査の期間

令和6年7月10日から同年8月8日まで

### 3 審査の方法

町長から提出された各会計の決算及び関係書類並びに各基金の運用の状況を示す書類について、関係法令に準拠して調製されているか、財産の管理は適正か、予算が適正かつ効率的に執行されているか等に主眼をおき、関係諸帳簿の検査を行い、例月出納検査の結果及び各課等に提出を求めた資料を参考にして、関係職員から説明を聴取する等の方法により、軽井沢町監査基準に準拠して審査を実施した。

## 第2 審査の結果※

### 1 審査の総括的意見

審査に付された各会計の決算及び関係書類は、重要な点において、法令に適合し、かつ正確であると認められる。また、基金の運用の状況を示す書類は、重要な点において、その計数が正確であり、各条例の設置の目的に従って適正に運用されているものと認められる。

---

※ 計数は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。

## 2 一般会計及び特別会計の総計決算状況

一般会計及び特別会計の総計決算状況 (単位：円)

会計別	区分	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額 (形式収支額)
一般会計		18,798,339,409	17,240,422,195	1,557,917,214
特別会計		5,081,649,986	4,793,857,781	287,792,205
	国民健康保険事業勘定	2,496,355,530	2,478,408,207	17,947,323
	駐 車 場	246,499,637	202,346,699	44,152,938
	介 護 保 険	1,890,605,028	1,680,609,800	209,995,228
	後期高齢者医療	448,189,791	432,493,075	15,696,716
合 計		23,879,989,395	22,034,279,976	1,845,709,419

一般会計と特別会計を合わせた総計決算額について、歳入の決算額は238億7,999万円で前年度(235億5,828万円)と比較して3億2,171万円増加し、歳出の決算額は220億3,428万円で前年度(219億2,858万円)と比較して1億570万円増加した。歳入歳出差引額(形式収支額)は、18億4,571万円で、前年度(16億2,970万円)と比較して2億1,601万円増加した。翌年度への実質繰越額(実質収支額)は、翌年度へ繰り越すべき財源1億7,951万円を差し引いた16億6,620万円で、前年度(15億9,450万円)と比較して7,170万円増加した。

### 3 各会計の決算状況

#### (1) 軽井沢町一般会計

軽井沢町一般会計の決算状況

(単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
予 算 現 額	18,552,503,000	18,142,707,000	2.3%
歳 入 決 算 額	18,798,339,409	18,488,494,874	1.7%
歳 出 決 算 額	17,240,422,195	17,043,444,731	1.2%
歳入歳出差引額	1,557,917,214	1,445,050,143	7.8%
翌年度へ繰り越すべき財源	179,511,200	35,200,000	410.0%
翌年度への実質繰越額	1,378,406,014	1,409,850,143	△2.2%

#### ア 総括

歳入決算額は187億9,834万円で、前年度と比較して3億984万円増加した。歳出決算額は172億4,042万円で、前年度と比較して1億9,698万円増加した。歳入歳出差引額（形式収支額）は、15億5,792万円で前年度と比較して1億1,287万円増加した。

翌年度への実質繰越額は、翌年度へ繰り越すべき財源（低所得者支援・定額減税補足給付事業、道路メンテナンス事業補助南ヶ丘橋撤去事業等の合計1億7,951万円）を差し引いた13億7,841万円で、前年度と比較して3,144万円減少した。

令和5年度における地方債の新規の借入れはなく、元金償還金は2億5,946万円で、年度末の地方債残高は、15億3,068万円（前年度17億9,014万円）となった。

町の収入の根幹である町税収入は、一般会計の歳入の57.7パーセントであった。

内閣府の月例経済報告（令和6年7月）によると、先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されるが、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があるとされている。

当町では、今後も、第6次軽井沢町長期振興計画に基づき、庁舎

改築周辺整備事業が本格化していくとともに、公共施設、インフラ等の老朽化に伴う長寿命化対策、少子高齢化社会の進展に対する対策、自治体DXの推進、多種多様なニーズへの対応等、多くの課題に対応するため多額の経費を要するものと考えられる。

こうした状況から、経常的経費を含めた歳出の更なる縮減に努め、限られた財源を有効活用するとともに、今後必要となる事業に向けて自主財源を含む財源の確保及び経営の効率化に努める必要がある。

## イ 歳入

令和5年度の自主財源は160億3,348万円、依存財源は27億6,486万円で、歳入全体に占める自主財源の構成比率は85.3パーセントとなり、前年度から1.3ポイント増加した。

自主財源の大部分を占める町税は総額108億4,481万円で、前年度（103億6,071万円）と比較して4億8,410万円増加した。これは主に個人町民税が1億8,805万円、法人町民税が8,512万円、固定資産税が1億8,745万円増加したことによるものである。

町税の収納状況をみると、収入歩合は、現年度課税分99.0パーセント（前年度99.0パーセント）、滞納繰越分12.2パーセント（前年度14.1パーセント）で合わせて93.6パーセントとなり前年度（93.3パーセント）と比較して0.3ポイント上回った。令和5年度のコンビニエンスストアにおける収納の件数は40,649件（前年度45,711件）、その額は7億5,886万円で、前年度（8億6,792万円）と比較して1億906万円減少した。これは主に共通納税が令和5年度から導入されたことによるものと考えられる。長野県地方税滞納整理機構へ移管した額は3,091万円（前年度2,779万円）で、徴収した額は858万円（前年度824万円）であった。

町税の不納欠損額は959万円で、前年度（1,219万円）と比較して260万円減少した。不納欠損の内訳は、滞納繰越分の固定資産税670万円、個人町民税116万円等である。

町税の収入未済額は7億3,294万円で、前年度（7億3,011万円）と比較して283万円増加した。

前年度と比べ、町税の不納欠損額が減少しており、収入済額及び収入歩合も上昇しているが、引き続き未収金発生を未然に防止することに努められたい。また、税負担の公平性を確保するために、引

き続き滞納者ごとの実態を的確に把握し、効果的かつ効率的な滞納整理に努められたい。

固定資産税等の課税額が未評価状態となっていたことによる課税漏れの再発防止については、引き続きしっかりと取り組まれたい。

## ウ 歳出

令和5年度の主な事業としては、総務費では、地域で取り組む国際交流・国際人材育成事業委託2,500万円、低所得者支援給付金給付他6,126万円、L G W A N無線機器接続設定作業委託2,023万円、「よぶのる軽井沢」実証実験運行負担金2,000万円及び庁舎改築周辺整備基本計画見直し検討業務委託700万円、民生費では、低所得世帯等支援金給付7,542万円、物価高騰対応重点支援金給付1億7,661万円、低所得世帯等支援金追加給付7,569万円、長野県・軽井沢町価格高騰給付金1,012万円及び軽井沢学園建設費補助3,000万円、衛生費では、電動式刈払機等普及促進補助1,507万円及び粗大ごみ処理施設長寿命化修繕4,703万円、農林水産業費では、ツキノワグマ対策事業委託1,870万円、商工費では、新型コロナウイルス感染症対策緊急資金利子補給1,015万円、土木費では、社会資本整備総合交付金事業鳥ヶ坂団地住戸改善工事4,835万円、町道浅間幹線速度抑制舗装設置工事2,261万円及び湯川ふるさと公園橋梁新設工事实施設計委託3,945万円、消防費では、小型動力ポンプ積載車購入1,837万円、教育費では、国際カーリング選手権大会補助500万円、プレハブ仮設校舎借上料556万円、西部小学校プール解体他工事1,350万円、公益財団法人軽井沢大賀ホール運営費補助1億1,493万円、旧軽井沢公民館建築工事5,918万円、追分宿津軽屋保存修理工事实施設計委託1,080万円及び旧三笠ホテル建造物保存修理工事(第2期分)3億円が挙げられる。

各特別会計等への繰出金は、国民健康保険事業勘定特別会計へ1億9,220万円(前年度1億9,551万円)、介護保険特別会計へ2億6,395万円(前年度2億7,224万円)、後期高齢者医療特別会計へ7,609万円(前年度7,047万円)、下水道事業会計(公共下水道事業)へ2億2,000万円(前年度3億7,229万円)、下水道事業会計(農業集落排水事業)へ2,650万円(前年度3,050万円)及び国民健康保険軽井沢病院事業会計へ7億1,018万円(前年度9億8,682万円)で、合計は14億8,892万円となり前年度(19億2,783万円)と比較して4億3,891万円減少

した。

公債費は2億7,601万円で、前年度（3億5,331万円）より7,730万円減少した。

今後も民生費等への経費増加が予想されるため、引き続き各事業の歳入確保に努め、より適正な歳出予算の執行管理に努められたい。



(2) 軽井沢町国民健康保険事業勘定特別会計

軽井沢町国民健康保険事業勘定特別会計の決算状況 (単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
予 算 現 額	2,701,667,000	2,686,912,000	0.5%
歳 入 決 算 額	2,496,355,530	2,639,624,601	△5.4%
歳 出 決 算 額	2,478,408,207	2,607,280,268	△4.9%
歳入歳出差引額	17,947,323	32,344,333	△44.5%
翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	—
翌年度への実質繰越額	17,947,323	32,344,333	△44.5%

国民健康保険の被保険者は、人口2万1,634人（令和5年度末現在）のうち5,359人、加入率は24.8パーセントで前年度（26.0パーセント）と比較して1.2ポイント減少した。加入世帯数は3,555件で、前年度（3,625件）と比較して70件減少した。

療養給付の給付件数は78,860件で、前年度（80,677件）と比較して1,817件減少し、費用額は18億5,395万円で、前年度（19億8,738万円）と比較して1億3,344万円減少した。1人当たりの費用額は33万8,311円で、前年度（34万7,080円）と比較して8,769円減少した。

歳入の決算額は、24億9,636万円で前年度と比較して1億4,327万円減少した。

国民健康保険税の収入済額は6億3,685万円（前年度6億4,544万円）、不納欠損額は139万円（前年度317万円）、収入未済額は2億25万円（前年度2億173万円）である。収入歩合は、現年度課税分が94.2パーセントで、前年度（94.1パーセント）と比較して0.1ポイント上回った。滞納繰越分を含む全体の収入歩合は、75.9パーセントで前年度と変わらなかった。引き続き滞納の削減に努められたい。

歳出の決算額は24億7,841万円で、前年度と比較して1億2,887万円減少した。

歳入歳出差引額（形式収支額）及び翌年度への実質繰越額は、1,795万円となっている。

特定健診の受診率が前年度と比較して減少している。医療費の削減を図るため、対象者への特定健診の受診を促し、受診率を引き上げるよう努められたい。

(3) 軽井沢町駐車場特別会計

軽井沢町駐車場特別会計の決算状況 (単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
予 算 現 額	233,323,000	143,430,000	62.7%
歳 入 決 算 額	246,499,637	160,040,919	54.0%
歳 出 決 算 額	202,346,699	133,726,930	51.3%
歳入歳出差引額	44,152,938	26,313,989	67.8%
翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	—
翌年度への実質繰越額	44,152,938	26,313,989	67.8%

歳入の決算額は、2億4,650万円で前年度と比較して8,646万円増加した。令和5年度の利用台数は39万7,729台で、前年度(40万8,136台)と比較して1万407台減少した。

歳出の決算額は2億235万円で、前年度と比較して6,862万円増加した。

歳入歳出差引額(形式収支額)及び翌年度への実質繰越額は4,415万円となっている。

平面化整備工事に伴う解体工事のため令和5年11月から旧軽井沢駐車場が稼働していないこともあり、前年度と比較して利用台数が減少したが、利用料金の収入は増加している。今後も利便性の向上及び施設の効率的な運用に努められたい。

(4) 軽井沢町介護保険特別会計

軽井沢町介護保険特別会計の決算状況

(単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
予 算 現 額	1,889,104,000	1,980,337,000	△4.6%
歳 入 決 算 額	1,890,605,028	1,879,506,916	0.6%
歳 出 決 算 額	1,680,609,800	1,783,149,542	△5.8%
歳入歳出差引額	209,995,228	96,357,374	117.9%
翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	—
翌年度への実質繰越額	209,995,228	96,357,374	117.9%

要支援及び要介護の認定者数は、809人（前年度778人）であった。

介護給付及び予防給付に係るサービスの受給者数は775人（前年度761人）でその内訳は、居宅介護サービス又は介護予防サービスの受給者574人、地域密着型介護サービス又は地域密着型介護予防サービスの受給者82人、施設介護サービスの受給者119人となっている。

歳入の決算額は18億9,061万円で、前年度と比較して1,110万円増加した。保険料の未収金は666万円で、前年度（1,651万円）と比較して984万円減少した。

歳出の決算額は16億8,061万円で、前年度と比較して1億254万円減少した。これは主に基金積立金が減少したためである。

歳入歳出差引額（形式収支額）及び翌年度への実質繰越額は2億1,000万円となっている。

今後も質の高いサービスが求められることから、安定したサービスの提供を継続するため、未収金の回収と高齢者福祉の更なる推進を図られたい。

(5) 軽井沢町後期高齢者医療特別会計

軽井沢町後期高齢者医療特別会計の決算状況 (単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
予 算 現 額	452,040,000	367,581,000	23.0%
歳 入 決 算 額	448,189,791	390,609,826	14.7%
歳 出 決 算 額	432,493,075	360,977,310	19.8%
歳入歳出差引額	15,696,716	29,632,516	△47.0%
翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	—
翌年度への実質繰越額	15,696,716	29,632,516	△47.0%

医療給付費の給付件数は97,795件で、前年度(91,408件)と比較して6,387件増加し、費用額は30億1,969万円で、前年度(30億1,409万円)と比較して560万円増加した。1人当たりの医療費は80万9,353円で、前年度(84万8,085円)と比較して3万8,732円減少した。

歳入の決算額は4億4,819万円で、前年度と比較して5,758万円増加した。保険料の未収金は563万円で、前年度(427万円)と比較して137万円増加した。

歳出の決算額は4億3,249万円で、前年度と比較して7,152万円増加した。

歳入歳出差引額(形式収支額)及び翌年度への実質繰越額は1,570万円となっている。

令和7年には、いわゆる2025年問題により超高齢化社会に突入するとされており、その後も後期高齢者の割合が増大していくと見込まれている。引き続き被保険者に対し制度の趣旨及び内容等について十分な説明を行い、未収金の回収に力を入れ、より健全な運営が図られるよう財源の確保及び被保険者間の負担の公平性の確保に努められたい。

## (6) 軽井沢町水道事業会計\*

軽井沢町水道事業会計の決算状況

(単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
水道事業収益	720,854,381	719,848,755	0.1%
営業収益	661,701,176	658,063,969	0.6%
営業外収益	59,153,205	61,784,786	△4.3%
特別利益	0	0	—
水道事業費用	580,574,508	535,441,408	8.4%
営業費用	575,122,092	524,959,371	9.6%
営業外費用	4,748,789	8,267,854	△42.6%
特別損失	703,627	2,214,183	△67.2%
予備費	0	0	—
損益収支残高	140,279,873	184,407,347	△23.9%

年間配水量は524万3,347立方メートルで、前年度（504万2,697立方メートル）と比較して20万650立方メートル増加し、有収水量は375万3,095立方メートルで、前年度（365万1,505立方メートル）と比較して10万1,590立方メートル増加した。

水道事業収益の決算額は7億2,085万円で、前年度と比較して101万円増加した。このうち、営業収益は6億6,170万円で、前年度と比較して364万円増加した。

水道事業費用の決算額は5億8,057万円で、前年度と比較して4,513万円増加した。このうち、営業費用は5億7,512万円で、前年度と比較して5,016万円増加した。経常利益は1億4,098万円で、前年度（1億8,662万円）と比較して4,564万円減少した。

特別利益と特別損失を加味した当年度の純利益は1億4,028万円で、前年度と比較して4,413万円減少し、建設改良積立金の取崩し分を加えた当年度未処分利益剰余金は2億1,913万円で、前年度（2億7,691万円）と比較して5,778万円減少した。これは主に水道料金システム更新業務委託による営業費用の増加によるものと考えられる。

収納率は、現年度分が98.7パーセントで前年度（98.8パーセント）と比較して0.1ポイント減少しており、過年度分が55.9パーセントであった。

※ 金額は、消費税及び地方消費税の額を含まない。

建設改良工事等については、町道発地馬取線配水管布設替工事2,958万円等の老朽管の布設替え工事、下水道工事と併せて実施した配水管仮設移設古宿10工区工事2,248万円及び三笠浄水場浄水施設建設工事4,730万円、小岩第1水源池ポンプ設備工事1,100万円等の水道施設の整備等を実施し、水道水の安定供給が図られた。

今後においても、施設の維持管理、長寿命化、水道施設及び管路の更新、改良等を計画的に行い、引き続き軽井沢の良質で安全な水を安定的に供給するため、効率的かつ健全な事業運営を行うよう努められたい。

今回の審査において、決算書に計数の誤りが認められ、修正された。決算書の作成に当たっては、十分な確認作業を行われたい。

## (7) 軽井沢町下水道事業会計※

軽井沢町下水道事業会計の決算状況 (単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
下水道事業収益	807,288,377	804,131,062	0.4%
公共下水道事業収益	775,026,196	766,798,354	1.1%
営業収益	342,275,661	329,525,596	3.9%
営業外収益	432,750,535	437,272,758	△1.0%
特別利益	0	0	—
農業集落排水事業収益	32,262,181	37,332,708	△13.6%
営業収益	1,900,090	2,011,000	△5.5%
営業外収益	30,362,091	35,321,708	△14.0%
特別利益	0	0	—
下水道事業費用	690,898,990	711,789,486	△2.9%
公共下水道事業費用	666,524,500	683,599,076	△2.5%
営業費用	647,570,703	648,348,599	△0.1%
営業外費用	18,349,125	23,884,000	△23.2%
特別損失	604,672	11,366,477	△94.7%
予備費	0	0	—
農業集落排水事業費用	24,374,490	28,190,410	△13.5%
営業費用	23,528,545	25,860,385	△9.0%
営業外費用	845,945	1,002,225	△15.6%
特別損失	0	1,327,800	皆減
予備費	0	0	—
損益収支残高	116,389,387	92,341,576	26.0%

令和5年度の年間総処理水量は、公共下水道事業が191万7,986立方メートル、農業集落排水事業が1万1,189立方メートル、合計は192万9,175立方メートルで、前年度(186万1,915立方メートル)と比較して6万7,260立方メートル増加した。

下水道事業収益の決算額は8億729万円で、前年度と比較して316万円増加した。このうち、営業収益は3億4,418万円で、前年度(3億3,154万円)と比較して1,264万円増加した。

下水道事業費用の決算額は6億9,090万円で、前年度と比較して2,089万円減少した。このうち、営業費用は6億7,110万円で、前年度

※ 金額は、消費税及び地方消費税の額を含まない。

(6億7,421万円)と比較して311万円減少した。経常利益は、1億1,699万円で、前年度(1億504万円)と比較して1,196万円増加した。

特別利益と特別損失を加味した当年度の純利益は1億1,639万円で、前年度と比較して2,405万円増加した。

収納率は、現年度分が99.1パーセントで前年度(98.6パーセント)と比較して0.5ポイント増加しており、過年度分が33.9パーセントであった。

建設改良工事等については、公共下水道管路施設古宿10工区工事2,993万円等を行い、水質の保全及び生活環境の改善が図られた。

公共下水道については、事業計画に定める予定処理区域における管路施設工事が令和6年度に完了する見込みである。事業を持続的に運営するため、新規接続の促進に努めるとともに、随時、終末処理場の能力と処理区域内人口等とのバランスを検討し、必要に応じて事業計画を見直す等、適切な収支管理に取り組まれない。

今後も、長期的な計画の下に、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上等に的確に取り組むとともに、老朽化が進行する施設の適正な維持管理及び経費の節減に努め、効率的かつ健全な経営を図られたい。

今回の審査において、決算書に計数の誤りが認められ、修正された。決算書の作成に当たっては、十分な確認作業を行われたい。



## (8) 軽井沢町国民健康保険軽井沢病院事業会計※

軽井沢町国民健康保険軽井沢病院事業会計の決算状況 (単位：円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減率
病院事業収益	3,115,319,084	2,973,373,698	4.8%
医業収益	1,744,805,483	1,776,928,031	△1.8%
医業外収益	868,220,532	1,147,430,315	△24.3%
訪問看護収益	17,367,730	14,358,032	21.0%
特別利益	484,925,339	34,657,320	1,299.2%
病院事業費用	3,080,603,635	2,588,794,975	19.0%
医業費用	2,534,040,459	2,434,352,320	4.1%
医業外費用	114,822,190	119,665,784	△4.0%
訪問看護事業費用	32,768,642	23,084,353	42.0%
特別損失	398,972,344	11,692,518	3,312.2%
損益収支残高	34,715,449	384,578,723	△91.0%

患者数は、入院が2万5,186人で前年度(2万4,733人)と比較して453人増加し、外来が6万1,150人で前年度(5万9,788人)と比較して1,362人増加した。入院の1日平均患者数は68.8人で前年度(67.8人)と比較して1.0人増加し、外来の1日平均患者数は251.6人で前年度(246.0人)と比較して5.6人増加した。

病床利用率は70.9パーセントで、前年度(69.9パーセント)と比較して1.0ポイント上回った。

職員数は、令和6年3月31日現在132人で、前年度(129人)と比較して3人増加した。内訳は、医師14人、看護師等62人、医療技術員34人、事務員9人、その他職員13人となっている。

入院患者1人当たり1日の診療収入は3万9,391円で、前年度(3万7,126円)と比較して2,265円増加しており、外来の診療収入は患者1人当たり10,669円で、前年度(12,414円)と比較して1,745円減少した。

総事業収益は31億1,532万円、総事業費用は30億8,060万円で、当年度純利益は3,472万円となり、前年度と比較して3億4,986万円減少した。これは主に一般会計からの繰入金が増加したことによるほか、給

※ 金額は、消費税及び地方消費税の額を含まない。

与費及び減価償却費が増加したこと及び外来の患者1人当たりの診療収入が減少したことによる。なお、リース資産を含む固定資産について、その管理の不備を是正するため、棚卸及び固定資産管理システム移行作業等による整理を行ったことにより、特別利益に4億6,311万円、特別損失に3億9,642万円が計上され、当年度純利益を6,670万円増加させている。

前年度と比較して、患者数が増加しているが、外来の患者1人当たりの診療収入が減少していることもあり、結果として医業収益が減少している。また、空調設備等の建物附属設備及び医療器械の更新が必要となってきたこともあり、厳しい経営状況が続いている。全国的に医師不足が深刻な状況であり、医師の働き方改革を踏まえる必要もある。令和5年度に策定した「公立病院経営強化プラン」に基づき、今後も安全で質の高い医療を継続的に提供し、新興感染症の感染拡大時等に備えるとともに、地域の医療需要を見極めながら、効率的かつ健全な病院運営に取り組まれない。

固定資産台帳の管理その他の経理事務の不備に対しては、適切な管理体制を整備し、経理事務の適正化と効率化を図るとともに、公営企業会計の専門家の関与を強化することにより適正な管理を担保する仕組みの構築に努められたい。

(9) 基金の運用状況

基金の設置数は16で、年度末合計金額は、133億6,129万円の前年度と比較して14億8,817万円増加した。積立額は元金が32億1,568万円、利子が462万円であった。取崩額は、17億3,212万円の前年度と比較して2億900万円減少した。

一般会計の基金の運用状況については、令和5年度中の積立額は、各基金の元金及び利子分を含めて31億1,485万円の前年度と比較して7億9,026万円増加した。基金ごとの積立額（元金）の内訳は、財政調整基金へ9億7,000万円、さわやか軽井沢ふるさと基金へ8億9,101万円、庁舎改築周辺整備基金へ6億円、義務教育管理振興基金へ4億円、下水道建設工事基金へ2億円、企業版ふるさと応援基金へ3,000万円、減債基金へ1,100万円、森林環境整備基金へ807万円、町民福祉施設建設基金へ70万円であった。基金ごとの取崩額をみると、さわやか軽井沢ふるさと基金が9億7,788万円、財政調整基金が2億4,000万円、町民福祉施設建設基金が1億8,000万円、下水道建設工事基金が1億7,000万円、減債基金が2,870万円、企業版ふるさと応援基金が2,500万円、森林環境整備基金が684万円、農業振興基金が270万円であった。

国民健康保険事業勘定特別会計の基金の元金及び利子分を含めた令和5年度中の積立額は、3,405万円の前年度（4,504万円）と比較して1,098万円減少した。取崩額は400万円で、令和5年度末現在高は、1億6,549万円となった。

介護保険特別会計の基金の元金及び利子分を含めた令和5年度中の積立額は、415万円の前年度（1億11万円）と比較して9,596万円減少した。取崩額は3,000万円で、令和5年度末現在高は、3億4,473万円となった。

駐車場特別会計の基金の元金及び利子分を含めた令和5年度中の積立額は、6,724万円の前年度（8,532万円）と比較して1,808万円減少した。取崩額は6,700万円で、令和5年度末現在高は、8億1,059万円となった。

基金については、安全かつ効果的な管理及び計画的な運用を図りたい。

基金の運用状況一覧表

(単位：円)

基金名	前年度末現在高	令和5年度中の積立額		令和5年度中の 取崩額	令和5年度末 現在高	
		元金	利子			
財政調整基金	5,668,098,846	970,000,000	2,021,753	240,000,000	6,400,120,599	
減債基金	31,768,357	11,000,000	13,605	28,700,000	14,081,962	
義務教育管理振興基金	96,069,163	400,000,000	42,386	0	496,111,549	
農業振興基金	34,324,300	0	13,766	2,700,000	31,638,066	
町民福祉施設建設基金	385,766,495	700,000	160,057	180,000,000	206,626,552	
下水道建設工事基金	278,200,684	200,000,000	108,379	170,000,000	308,309,063	
土地開発基金	178,228,876	0	69,462	0	178,298,338	
芸術・文化振興基金	189,027,799	0	83,400	0	189,111,199	
さわやか軽井沢ふるさと基金	1,237,257,324	891,010,100	497,818	977,883,000	1,150,882,242	
企業版ふるさと応援基金	23,350,468	30,000,000	10,302	25,000,000	28,360,770	
森林環境整備基金	15,012,238	8,066,000	4,300	6,836,000	16,246,538	
庁舎改築周辺整備基金	2,416,661,425	600,000,000	1,046,283	0	3,017,707,708	
収入印紙等購買基金	3,000,000	0	0	0	3,000,000	
小計	10,556,765,975	3,110,776,100	4,071,511	1,631,119,000	12,040,494,586	
国保会計	国民健康保険事業財政調整基金	135,431,979	34,000,000	54,832	4,000,000	165,486,811
介護会計	介護保険基金	370,577,649	4,000,000	148,225	30,000,000	344,725,874
駐車場会計	駐車場整備基金	810,344,824	66,900,000	342,164	67,000,000	810,586,988
合計		11,873,120,427	3,215,676,100	4,616,732	1,732,119,000	13,361,294,259